

### 3-1 みんなで考え、みんなで話し合い、みんなが分かる 「いきもの」授業

〈授業像に込められた願い・・・〉

- 学校教育目標を受け、自己肯定感を高め、主体的に活動する子供の姿をゴールに見据えた。子供たちにも紹介し、「自己肯定感＝自分を好きになる」ことをスタートにした。  
学校のほとんどを占める授業のなかで、自分を好きになれるようにするには、「授業の中で活躍すること」という意見が子供から出た。そこで授業で活躍する場面を確認すると、「学級全体で考えているとき」「グループで話し合うとき」「分からないことが分かったとき」が挙げられた。一人では達成できない、グループや学級の力で授業に取り組んでいくことを確認した。  
私は子供と教師で創る「楽しい授業」を目指している。そこで、子供たちの考える「みんな」の中に教師を含めた「みんな」とした。
- みんなが活躍するためには、安心して発言できる学級作りも必要である。子供たちと、失敗は多くの学びを生むことを確かめた。失敗は成功の元という意見もでた。間違えることに抵抗がある子供が多い現状を、間違えこそ宝であるというように思えるようにしていく。
- いろいろな形の意見がある、たくさんの意見が出ることから、世界中に様々な種類がたくさんいる「いきもの」のような授業にすることを子供たちと決めた。また、「いきもの」授業になるように、話し合い活動やグループ活動、ペア活動を協力して行うという意見も大切にしたいことから、そちらは「みつばち話し合い」と名付けた。

